

モナ・ベーカー教授特別講演

Translation as an Alternative Space for Political Action

(政治的行為のためのオルタナティブ・スペースとしての翻訳)



マンチェスター大学 国際翻訳文化研究所

モナ・ベーカー

本講演はアクティヴィズム(行動主義)を掲げる翻訳・通訳者グループの起源、原則、力学を検証する。これらのグループはアルベルト・メルッチが論じたグローバル運動としての「集団行為」(Melucci 1996)をモデルとしつつも、とくに自分たちの言語スキルを用いて抵抗のための物語の空間や機会を広げようとする人々である。このような集団は、グローバル・パワーとしての英語や、言語をめぐる政治学によって不可視化された声に力を与えることを目的としている。混成言語を用いたり、英語の評価を意図的に下げたり、またグループのサイト内で各言語の順番や位置をたえず変更するのは、翻訳者・通訳者としての能力を用いて他者が生み出したテキストや発話を言語的に媒介する行為というよりも、むしろ政治的アジェンダであるといえよう。こうした予示的政治の実践はきわめて興味深いものであり、人道援助団体のためなど、さまざまな大義のために言語的支援を行う他の翻訳グループと明確に一線を画す点である。彼らは職業的役割の境界内にとどまって政治を他の人々に任せるのではなく、言説においても行動においても自分たちが奉じる原則そのものを実践し、同時にそれらの原則を擁護したり、他の人々が多様な言語でそれを表明するのを助けたりする。きわめて独創的な方法をしばしば用いて、そのような原則を現在に適用するのであって、特定の具体的かつ明確な政治的目標が達成される将来のために、それらの原則を適用しようと努力するのではない。

本発表においては、こうしたグループの活動のさまざまな側面に焦点を当て、現代における他のさまざまな運動との共通点や相違を明らかにするとともに、グローバルレベルの政治的行為のためのオルタナティブ・スペース(体制から自由な空間)として翻訳・通訳を用いている点に特に注目したい。

日時 2011年11月1日(火) 13:00~14:30

会場 立命館大学 衣笠キャンパス
創思館1階 カンファレンスルーム

【主催】関西トランスレーション・スタディーズ研究会

【共催】立命館大学国際言語文化研究所、神戸女学院大学、愛知淑徳大学

【お問い合わせ】佐藤=ロスベアグ・ナナ E-mail: N.Sato-Rossberg@uea.ac.uk

立命館大学国際言語文化研究所 Tel: 075-465-8164 E-mail: genbun@st.ritsumeai.ac.jp

参加費・事前申込不要

講演は英語で行います。(通訳なし)